

(様式1)

## 令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三寺島小学校学校
校長名	中村 奈緒美

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>算数は、どの観点においても高い得点率を取っている (全国平均を上回るか同等)。</li><li>国語「読む能力」「話す聞く能力」は、高い得点率である (全国平均を上回るか同等)。</li><li>同集団で見たとき、6 学年の社会と算数の D・E 層の割合が大きく減少した。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>理科の得点率は、高まっているものの全国平均より下回っている内容や観点が多い。</li><li>算数の「表現力」が目標から大きく下回っている。</li><li>学校全体で見たとき、A 層の割合が少ない。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>「家族の支え」や「友達の支え」「先生の支え」のスコアが目標値を上回っている学年が多い。</li><li>「生活習慣」の肯定値が標準スコアを上回っている学年が多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>「充実感と向上心」の肯定値が標準スコアを下回る学年が多い。</li><li>「学習習慣」が標準スコアの平均値と同等か下回ることが多い。</li></ul>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>宿題の提出率は高く、年々上がっている。</li><li>学習意欲が高い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>自分の考えを分かりやすく伝えることを苦手とする児童が多い。</li><li>学力差が大きく、授業では D・E 層へ対応した展開を取ることが多い。</li><li>課題解決にかかる時間の個人差が大きい。</li><li>問題の意図を理解できず、正対して答えられない。</li></ul>

### 2 本年度の学力向上に関する主な取組

#### (1) ワークテストを活用した自己評価

- 児童が自分自身の成長を捉え、自己評価できるようにする。
- ワークテストをファイリングして自分の得意な内容や苦手な内容、自分の成長を捉えられるようにする。
- 単元終わりにふり返りを行う。文章でふり返りを書かせると同時に「理解できたか」「問題を解けるようになったか」「予習をしたか(効果があったか)」などを4段階で自己評価し、満足度を測る。

- ・第3学年以上、単元終了毎に行う。

## (2) 問題解決型を意識したノート指導

- ・算数、理科の「第三寺島小学校のノートの使い方」を示す。墨田区算数部で研究しているノート作りをもとに「問題」や解決へ向けての「計画」、「やってみる」「友達の考え」「(演習)問題」といった項目立てを行い、思考の流れを記録できるノート作りを推進する(8割以上の達成を目指す)。
- ・1単位時間の最後には「まとめ」を書かせふり返りの日常化を目指す。

## (3) 授業自力解決場面や家庭学習における教科書の活用

- ・自力解決のヒントとして教科書を活用する。教科書を見ればヒントが書いてあるということを認識させ、困ったら教科書を開くという習慣を身に付けさせる。
- ・D・E層の児童が予習に取り組めるように、教科書を事前に読むことなど、予習になる家庭学習に取り組ませる。特にD・E層の児童に対して、単元の始めに予習の宿題を出す。「事前に教科書を読んだらできた。分かった」という実感をもたせ単元を進めていく。算数から始め、他の教科に広げることを目指す。

### 3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・無答率の減少(無回答率40%以上の問題をなくす。)
- ・A層の増加(国語:23名→40名) (社会:5名→17名)  
(算数:22名→46名) (理科:4名→12名)
- ・低学年(第2学年、第3学年の調査)の「基礎」の得点率において、目標値と比較し5~10%の上昇を目指す。